

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401300		
法人名	有限会社 ハマダコーポレーション		
事業所名	グループホーム おもひで		
所在地	北海道函館市東山3丁目2番4号		
自己評価作成日	令和 5 年 12 月 22 日	評価結果市町村受理日	令和6年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

数少ない民家改修型のグループホームである。改修前の家財を使用しており昔ながらの家庭的な雰囲気があります。庭には燈籠や庭石、四季を楽しみ感じただけのように木々や花を植えており様々な景色を楽しむことが出来る。四季のドライブは継続しており、コロナも5類になったことで外食や町内会の夏祭りなどにも参加させていただき、外出する機会も増えてきている。職員は入居者様の介護計画の実施状況を毎日業務日誌、個人記録に記入し目標達成に取り組んでおり、入居者様とのコミュニケーションを大切に毎日、安心して楽しく生活していただけるよう努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0171401300-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和6年1月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1) 事業所の基本事項：平成16年開設の1ユニットで、商業施設が立ち並ぶ産業道路に程近い、交通、買い物に至便でありながら、自然豊かで静かな住宅地に立地している。運営法人は、グループホームを多数展開しており、そこで得た経験から、代表、統括部長を中心に職員が意欲をもって働ける環境作りに取り組み、職員の年齢層に厚みを持たせ、日常の多様なニーズにも対応している。
- 2) 職員の介護への基本姿勢・態度：職員は基本・ケア理念を介護の基本として研修を重ね、利用者の安心・安全・家族の信頼関係維持に努めて、真摯に介護に専念している。地域密着型サービスとして、地域との協力関係継続を目標に、行事への積極的参加や福祉に関する相談に応じる等で、連携を深めている。
- 3) 家族の介護支援への好感等：家族とのコミュニケーションの充実を事業所の目標としており、お便りの充実や意見、希望の聴取、満足度を計る為、毎年、自社アンケートを実施し、意見・要望に回答し、運営に活かしている。
- 4) 運営推進会議開催状況：家族、地域関係者、地域包括等の参加・協力を得て、集合型で定期開催。資料を基に運営状況を説明して、参加者の意向を運営に反映するように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日 <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念、ケア理念を居間、事務所に掲示している。申し送り後に唱和し共有、実践に繋げている。	法人として基本・ケア理念が定めており、管理者を中心に申し送りや会議の場で、理念に沿った考え方を共有出来ているか、定期的に確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属しており、入居者様と一緒に回覧板をまわしたりコロナが5類以降、行事も再開し夏祭りなどの行事に参加させていただき近隣住民との方々と交流している。	春以降、町内会の活動は再開しつつあり、日常的な挨拶や活動・催事への参加等、近隣住民との関係維持に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や認知症のご家族をお持ちの方に相談を受け情報を提供、共有し地域の方におもひでを理解していただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、開催しており参加者の方々より意見交換やアドバイスをいただき、職員間で話し合いサービスの向上に活かしている。	現在は集合型で各委員等の参加を得ながら、運営推進会議を2ヶ月毎に定期開催している。議事録を送付し、意見を聞き取ることで、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類等の提出時に市の保健福祉部指導監査課、包括支援センターへ直接持って行った際に相談などを行い協力関係を築くよう取り組んでいる。	行政窓口とは、各種の情報交換や地域的な支援体制の問題で連携して役割を担っており、地域高齢者や事業所の状況について、窓口と情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に4回、身体拘束検討委員会、年に2回、職員研修を開いており、職員間で現在の入居者様の様子について十分に話し合い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束、虐待について各委員会を設置し、定例で開催、内容について職員に周知している。全利用者の現状の確認と、不適正ケアの事例検討や予防方法等、研修を行いながら拘束虐待等はあってはならないケアとして認識、確認している。	
7		○虐待防止対策 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止委員会、職員研修を開いており職員間でケアの状況や対応の仕方、不安や疑問点を話し合い情報を共有し防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している入居者様はいないが、研修、勉強会が開催される時には参加し知識を高め、今後必要な時にはいつでも活用出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には入居者様、ご家族様にサービス内容を詳しく説明し、不安、疑問点を確認し理解を得られるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様との信頼関係の構築に努めるため、来訪時や日頃より定期的に連絡を取り合い些細な事でも相談して頂けるような雰囲気作りに配慮している。年に一度アンケートも実施し意見、要望を運営に反映させている。	現在は、主に面会来訪時に声掛けし、家族の意見、要望を聞き取り、運営に反映している。アンケートや電話、ホーム便り、運営推進会議録の送付等、多様な情報交換の場を設定し、意見を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から意見を言えるような雰囲気作りに努め、日常やミーティングなどで出た意見、提案を管理者より統括部長へ、統括部長より代表者へ伝えて頂き運営に反映させている。	申し送りや会議の場で、職員が自由に意見を述べる機会があり、介護姿勢や業務の改善に活かしている。職員満足度を図りながら、面談の機会を設け、代表、統括部長が随時相談に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の努力や実績を把握し賞与に反映させ、希望の労働時間や希望休、産休、育休の取得など働く環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者、統括部長、管理者は、職員の経験、力量に応じて、積極的に外部研修や国家試験の受講、援助に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は研修などで、他の施設の方との意見交換やアドバイスをいただき、交流する機会を設け、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に計画作成担当者、管理者が面談のため訪問し事前にご本人様にお会いして困っている事や不安な事、要望等をお聞きし解消出来るように努め、安心して入居して頂けるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にも入居前の面談に同席して頂き、不安な事や要望等をお聞きし解消出来るように努め、ご家族様の思いを大切に信頼関係作りに努めている。また、遠方にお住まいでお会い出来ないご家族様には、電話にて対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様、ご家族様から教えて頂いた情報や入居前に利用されていたサービス機関、医療機関の情報を元に必要としている支援を見極め検討し、適切なサービスが利用出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事前の情報やご本人様が出来ることを見極め生活の中で活かせるように支援し、職員、入居者様同士と一緒に係わりの時間を大切にして共に楽しく生活し家族の存在になれるような関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や定期的に電話にてご本人様の様子や状況をお伝えしたり、ご本人様とお話し安心して生活して頂けるように職員と連携しながらご本人様を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナが5類になったことで、ご家族様に協力して頂き入居前より通われている美容室に行かれたり、知人の来訪や遠方にお住まいの身内の方が来訪されるなど、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	希望する馴染みの場所への外出は職員同行、または家族の協力を得ながら、支援している。引き続き、感染防止に留意しながら、柔軟な対応で関係が断たれないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を把握し良い関係が作れるように配慮したり、孤立しないよう職員が間に入り自然に談笑の輪に入れるよう支援しお互いが不快な思いをしないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者様の施設や病院へ面会に行かせて頂いたり、ご家族様より写真や現在の様子の電話などがあり、相談など出来る限りの事を行い関係が途切れないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の係わりの中で希望や意向をお聞きし、困難な方は表情や動作から思いをくみ取り本人本位になるよう努めている。また、最後の時間をどのように過ごしたいか、ご本人様、ご家族様からお聞きしサービス計画書作成時の度に意向を記載し把握に努めている。	職員は、ケア全般において定期的に検証しながら、利用者一人ひとりの思いや意向を聞き取り、応えるよう努めている。また、個々の誇りや個性を損なうことのないよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様、利用していたサービス機関から情報をお聞きし、入居前の生活習慣を大切にし入居後も大きく変わらない生活を送って頂けるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常、ミーティングなどで話し合い情報を共有し入居者様一人ひとりの心身状態、出来る事を伸ばすように働きかけたり、出来ない事や支援が必要な所は援助し、現状の能力を把握出来るよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様から希望や意見をお聞きし職員間で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。業務日誌には個別に実施状況を記録している。	利用者本位を基本に、家族、医療機関、職員の意見を反映し、計画作成担当者が原案を作り、職員間でモニタリング結果と合わせて検討して、現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日常の暮らしの様子や介護計画に係ること、気づきなど記入し職員は申し送りや記録を閲覧し情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員間でその時々生まれたニーズに対して話し合い、ご家族様が都合上対応困難な場合、事業所が変わって対応するなど、柔軟なサービスが出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員と一緒に回覧板をまわしたりしている。町会行事の夏祭りでは、地域の方と一緒に盆踊りを踊ったり、もちつき大会でも地域の方に手を貸してもらいながら餅つきを行い安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様が希望するかかりつけ医への受診支援の他に医療連携している主治医による往診があり、急変、緊急時も24時間体制で診てもらっている。電話にて入居者様の状態を相談したりと、安心して適切な医療が受けられるように支援している。	かかりつけ医は利用者と家族の意向で決定している。協力医療機関や事業所配置の看護師より随時助言を得て、体調面・支援方法について職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携をしている病院の看護師が隔週で訪問し、入居者様の健康状態を診て下さり相談や体調面を報告。一人ひとりのアドバイスや指示をして下さり適切な看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関へ入院の際は、必ず職員が付き添い、病院関係者に情報提供や今後の方針など相談している。定期的に面会及び連絡を取り合い、早期退院出来るように病院関係者との関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様には入居時に重度化、看取りに関する指針を説明し同意を得ている。ホームで職員が出来ることを説明し理解してもらい、状態の変化に応じて主治医、ご家族様と都度話し合い、主治医とは24時間体制で連携を取り終末期支援に取り組んでいる。	重度化や終末期における対応は、契約時に文書で説明し同意を得ている。重篤となった場合は、医療機関へお願いしているが、本人や家族の希望により、可能な限り寄り添えるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には、緊急時対応マニュアルがあり職員全員が把握している。AEDも設置しており、万が一の時には何時でも使用出来るようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼夜を想定し消防士立ち合いの元、避難訓練を行っている。災害マニュアルもあり、全職員も把握している。災害時には、地域の方が救助に来てもらえる体制も整っており、今後は地震などの災害の訓練も行う予定である。	法人としてBCPを策定し、火災・地震等の災害を想定した避難訓練を定例で実施している。町内会や法人の他事業所との協力体制も含め、備蓄品の確認を行い、不意の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様のプライバシーに配慮し、不適切と思われるケアや言葉づかい等は都度、指導、話し合いを行い改善に努め、誇りを損ねない対応を心掛けている。	職員は日々の接遇や言葉使い、望ましいケアについて職員本位の表現とならぬよう定期的に話し合っている。不適切と思われる対応については、都度、その場で改善に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様一人ひとりが生活の中で自己決定をしていただけるような声掛けや能力に応じて選択肢を用意するなどして、自己決定出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居前からの習慣を大切に、体操、散歩などの運動や昼寝、新聞、趣味のバズルを行ったりと入居者様のペースで過ごして頂き、希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居前の生活背景から、好みの服装や化粧をしたり、訪問美容師に好みの髪型や毛染めなどを取り入れおしゃれが出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その時にある食材で調理し食器や盛り付けを工夫し食事を楽しんで頂いている。職員と一緒に調理や盛り付けをしたり、下膳や食器拭きなども一緒に行っている。	季節や馴染みの食材を取り入れ、利用者から嗜好を聞き取り、献立を作成している。行事食やおやつレクの他、外食を再開し、楽しみとしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に食事量や水分量を残り偏りや脱水に注意している。食材により入居者様が食べやすいように見た目に配慮した刻みなど形態変化に応じている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、起床時、就寝時、毎食後に口腔ケアを行い、状態に応じて口腔スポンジを使用し、困難な方には介助を行い清潔保持に務めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の度に記録に残し個々の排泄パターン、トイレサインに合わせて声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄が出来るよう支援している。一人での立位が難しい方には、2名介助にて対応している。	トイレでの排泄を基本として取り組んでおり、一人ひとりの排泄パターンやサインを共有し、水分摂取や運動を取り入れる等、自然な排泄となるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が体調面に及ぼす影響を理解し、乳製品や食物繊維を多く含む食材の提供。毎日体操や散歩などを取り入れ適度な運動を行っている。必要に応じて下剤を調整しながら使用し便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	中々入浴出来ず、清拭が多くなり入居者様には迷惑を掛けている。入浴出来る時には、午前、午後に関わらずにゆっくりと心地よく入浴していただいている。	時間帯の制限はあるが、出来る限り利用者の希望に沿えるようにしている。拒否のある場合も、利用者の心情に寄り添い、声掛けに工夫しながら、心地よく入浴出来るよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を見て声掛けにて休んでいただいたり、習慣を大切に午前、午後問わず休まれたり、ソファで軽く横になったりと状況に応じて休まれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が種類、効能、副作用を把握出来るように薬情報を何時でも確認出来るように個人記録に添え付けている。また、誤薬を防ぐために確認表を用いて準備から内服まで複数人で確認し、指示通りに内服出来るように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、食器拭き、洗濯たたみなど個々の状態に合わせて役割を持って頂いている。毎日、新聞を読まれたり塗り絵やパズルなどを行い楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナが5類になったのでドライブ後外食に行ったり、かかりつけ医の受診後に自宅に寄ったりと支援している。また、ご家族様と一緒に行きつけの美容室や食事に行かれたりと支援している。	緩和後は感染防止に留意しながら、散歩や買い物、家族との外出、外泊等、個別対応にて可能な限り、外出が出来るよう支援している。自粛していた行事等の再開に向け、職員間で話し合っている。	コロナの5類移行後、制限をほぼ解除し、ドライブ、外食等の行事を再開している。職員間で協力し、日常的に外気に触れ戸外に出る取り組みに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	高額は金庫で預からせて頂いているが、ご自身で財布や少額を持って頂いている。個人の能力に応じて、買い物や外食の際、支払いをして頂けるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様から手紙や電話が来た時には、ご本人様とお話出来るよう支援している。ご自分で電話を掛けられたり、掛けられない方は職員が電話しお話し出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用していた家財をホーム内に使用しながらの居心地の良い雰囲気を作り出している。四季に応じて居間や廊下に飾り付けをしたり、居間の窓からは中庭を眺め日当たりも良く四季に応じて様々な風景を楽しむことが出来、心地よく過ごせるようにしている。	共用スペースは利用者の体感を聞き取りながら、温・湿度が適切に保たれている。職員と利用者が共同で作った作品が飾られ、明るく清潔で安全な環境作り注意到意し、椅子やソファを各所に配置し、好きな場所で自由に過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食卓で気の合う方とお話しされたり、自室にて休息や片づけをされたりと思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い入れのある写真を居室に飾ったり、使用していた家財や飾り物を飾っている。ご家族様と相談し協力して頂き、居心地よく過ごせるように工夫している。	居室は適正な広さが確保され、動線に注意した配置で馴染みの家具が置かれており、また壁には家族写真も貼られ、自分の部屋としてゆっくり過ごせる工夫となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには、分かりやすいように表札を掲げており、立ち上がりや歩行が安全に出来るようにトイレ、廊下、浴室に手すりを設置している。廊下にベンチを用意し疲れた時には休んで頂いている。		